

# 白藍塾オリジナル

## 2022入試小論文分析&解答のヒント

2022年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ● 慶応・看護医療学部

課題文はわかりやすい。学校という場が子どもたちにとってどんな意味を持っているかが論じられている。

今回も2つの設問があるが、どちらも説明問題。

問題1では、下線部1)にある、学校の『「自然」と呼ぶにはほど遠い性格』について説明することが求められている。

これは、課題文の最初の2段落で説明されているので、それをまとめるつもりで書けばよいだろう。子どもたちは学校に行きたくなくても行かなければならず、自分たちがいなければ学校が成り立たないにもかかわらず、学校の中では誰よりも弱い立場に置かれている。そうした学校のあり方を、「自然」ではない、と言っているわけだ。

問題2は、下線部2)の、教師は「自分が考えているよりもはるかに多くのことを児童に教えている」、という箇所の説明が求められている。

看護医療学部の問題2は、説明問題とも小論文問題ともつかない出題が多いが、今回は字数こそ多いものの、明らかに説明問題。ただし、「これまでの自身の体験をもとに」「『かくれたカリキュラム』の観点から」という2つの条件があるので、それを見落としはいけない。

下線部2)と同じ段落によれば、この「かくれたカリキュラム」というのは、「児童たちが人間関係などを通じて自ずから学んでいく潜在的なカリキュラム」であって、「子供たちの考え方や行動」を方向づけている。そして、重要なのは、それらが「学校や社会の他の在り方と連結し、総体として児童に影響を与えている」という点だろう。

つまり、学校の教師は、自分の担当する教科(公式のカリキュラム)以外に、そうした「かくれたカリキュラム」を通じて、子どもたちに日本の社会にふさわしい価値観や行動様式を身につけさせるように、おそらく無自覚に方向づけているわけだ。

課題文では給食やラジオ体操の例が挙げられているが、自分の学校生活を振り返れば、もっといろいろな例を思いつくだろう。「自身の体験」としては、そうした例を書くといい。

書き方は、どちらも2部構成のA型でよいだろう。問2は字数が多いが、体験の部分を長めに説明す

れば、十分字数は埋まるはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>